一々名義あり鷹師の知ところなれハここに贅せん

○或説に鷹鷂隼鶻の和字定まる雌雄なし華尾あるところなれハ
雌雄競ひ飛て雄の己に勝るをもとめて偶をゆるし古来し
こる年より林藪の野鳥不飛くる書ころもる羽くるへの鳥
巣を営ひ卵を産して雛のよく飛るへきを待てその父母の鷹
雛をともなひ霄漢に盤旋しその雛を觀そとしく名四方に離
散して再相見ゆることなしといへり或曰諸鳥多くハ雌雄雙栖ヒ
鷹鷂の數ハもりて不飛て雙栖するを見る鷹ハ定偶なきの
説ハ是へきに似たり

○支那及ひ百濟等よハ昔より放鷹の術行ハれしよしもそ鷹
学の書なくしもおれし異國そ本邦の昔そ鷹を好のみに
ものするよしなり古今に